

令和元年における神奈川県の自殺者の状況 (詳細版)

神奈川県警察本部から自殺統計原票に基づく神奈川県警察本部集計データの提供を受け、神奈川県内全体についての集計・分析を行ったので、その結果を報告する。

なお、今回の報告は、令和2年7月に公表した「概要版」の内容をさらに掘り下げ、項目を追加して分析を行った「詳細版」である。

- 1 年齢階級別自殺死亡率の状況
- 2 職業別（年齢階級別）の状況
- 3 原因・動機別の状況
- 4 自殺未遂歴の状況
- 5 同居人の状況
- 6 月別の状況
- 7 曜日別の状況

1 年齢階級別自殺死亡率の状況

年齢階級別、男女別自殺死亡率を見ると、令和元年は男女ともに「50歳代」が最も死亡率が高く、次いで「70歳代」、「30歳代」の順となっている。

また、10年前（平成21年を指す、以下同じ）と比較すると、「10歳代」を除くすべての年代で、男女ともに減少している。

なお、「10歳代」は、女性は3.4から2.8と減少しているものの、男性は4.2から7.6に増加しており、総数で3.8から5.2と増加している。

図 1-1

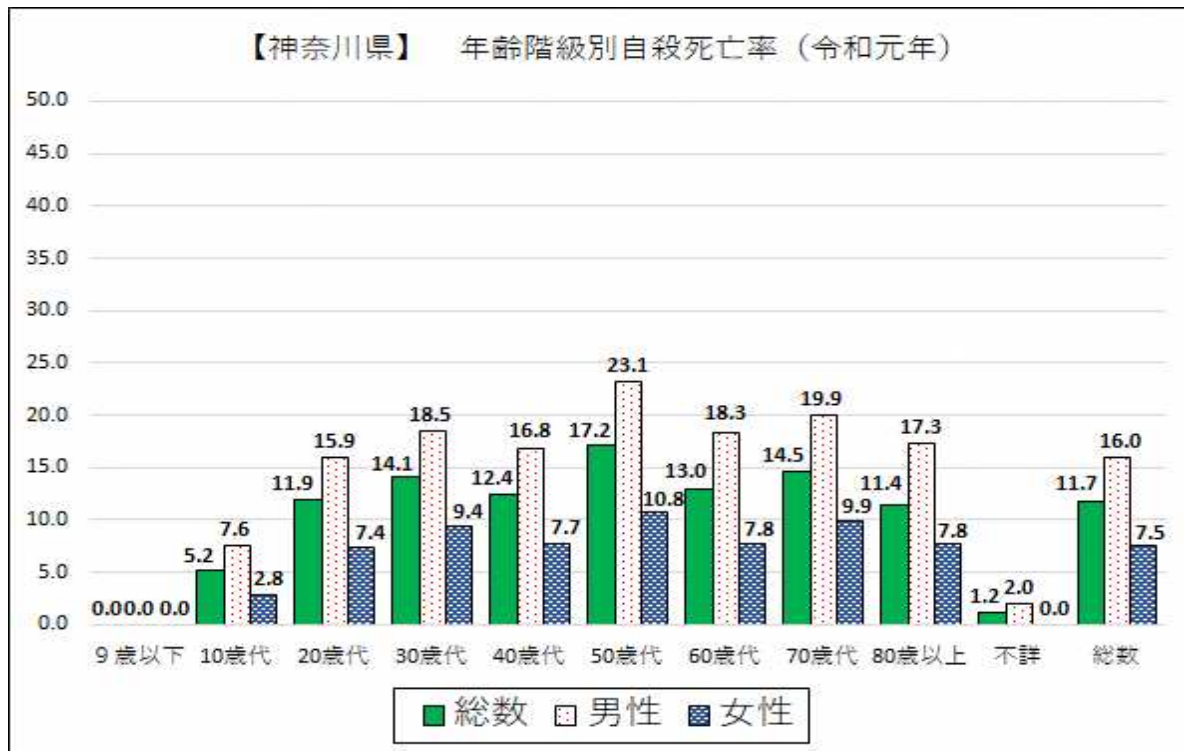
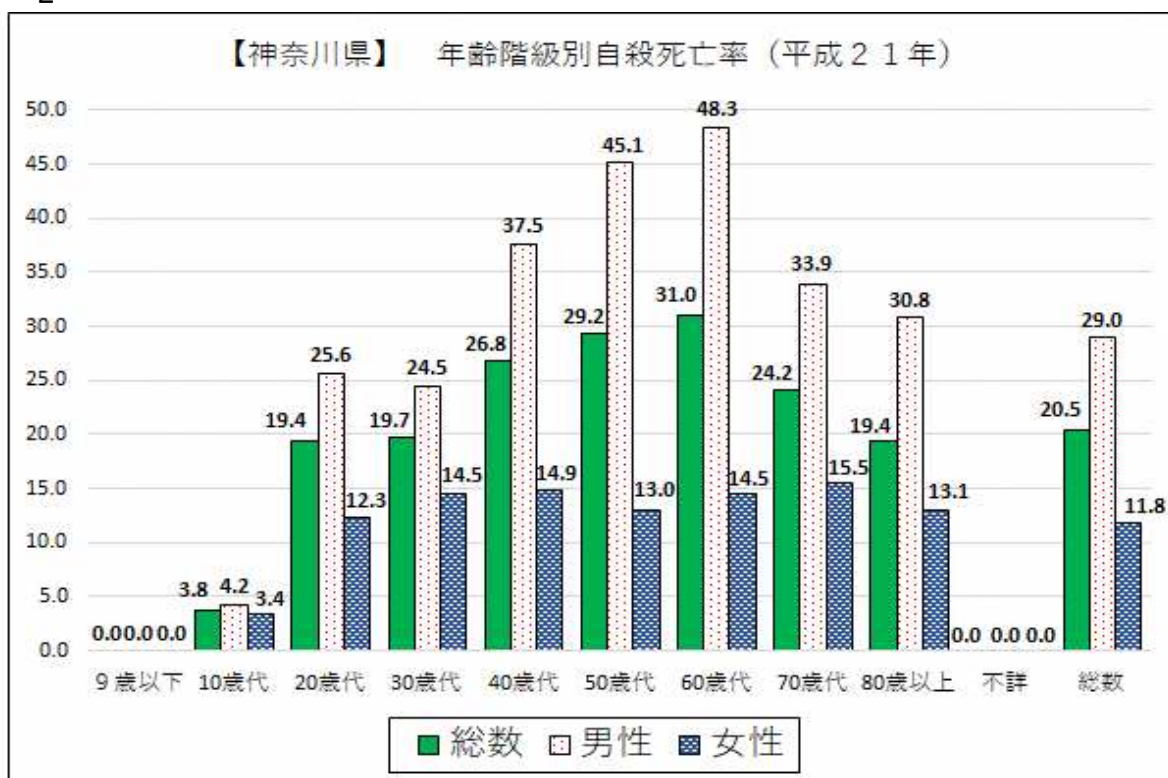


図 1-2



※ 自殺死亡率は、人口 10 万人当たりの自殺者数を表す（自殺者数÷人口×100,000 人）。

※ 各年代別等の人口は、神奈川県年齢別人口統計調査（該当年 1 月 1 日現在）に基づく。

2 職業別（年齢階級別）の状況

【令和元年の本県の状況】

- 本県の職業別の自殺者の状況を見ると、「無職者」が最も多く、次いで「被雇用者・勤め人」、「自営業・家族従業者」、「学生・生徒等」の順となっている。また、「無職者」の内訳を見ると、「年金・雇用保険等生活者」が最も多く、次いで「その他の無職者」、「主婦」、「失業者」の順となっている。
- さらに、年齢階級別、職業別の自殺者の状況を見ると、「無職者」では「70歳代」が、「被雇用者・勤め人」では「50歳代」が、「自営業・家族従業者」では「50歳代」が、「学生・生徒等」では「19歳以下」が最も多くなっている。「無職者」の内訳については、「年金・雇用保険等生活者」では「70歳代」が、「その他の無職者」では「30歳代」が、「主婦」では「50歳代」が、「失業者」では「50歳代」が多い。
- なお、男女別の年齢階級別、職業別の自殺者の状況を見ると、男性では「70歳代の無職者」が最も多く、次いで「50歳代の被雇用者・勤め人」、「40歳代の被雇用者・勤め人」となっており、女性では「70歳代の無職者」が最も多く、次いで「50歳代の無職者」、「60歳代の無職者」の順となっている。

表2-1

【神奈川県】年齢階級別、職業別自殺者数(令和元年)

年齢階級別 職業別		～	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80歳	不詳	合計
		19歳	29歳	39歳	49歳	59歳	69歳	79歳	～		
合計	計	42	118	155	182	212	139	151	76	1	1,076
	男	31	83	105	127	148	97	96	44	1	732
	女	11	35	50	55	64	42	55	32	0	344
自営業・ 家族従業者	計	0	3	9	12	22	14	6	3	0	69
	男	0	3	9	11	19	13	3	3	0	61
	女	0	0	0	1	3	1	3	0	0	8
被雇用者・ 勤め人	計	5	51	74	83	84	26	14	2	0	339
	男	4	35	60	65	70	25	12	2	0	273
	女	1	16	14	18	14	1	2	0	0	66
学生・生徒等	計	28	27	0	0	0	0	0	0	0	55
	男	21	22	0	0	0	0	0	0	0	43
	女	7	5	0	0	0	0	0	0	0	12
無職者	計	9	36	71	80	101	98	131	71	0	597
	男	6	23	35	46	54	58	81	39	0	342
	女	3	13	36	34	47	40	50	32	0	255
主婦	計	0	1	11	17	31	8	0	0	0	68
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	1	11	17	31	8	0	0	0	68
失業者	計	0	3	4	8	13	5	0	0	0	33
	男	0	3	4	8	11	5	0	0	0	31
	女	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
年金・雇用 保険 等生活者	計	0	3	3	7	5	59	130	70	0	277
	男	0	1	2	4	2	32	80	38	0	159
	女	0	2	1	3	3	27	50	32	0	118
その他	計	9	29	53	48	52	26	1	1	0	219
	男	6	19	29	34	41	21	1	1	0	152
	女	3	10	24	14	11	5	0	0	0	67
不詳	計	0	1	1	7	5	1	0	0	1	16
	男	0	0	1	5	5	1	0	0	1	13
	女	0	1	0	2	0	0	0	0	0	3

※ 無職者のうち、「その他」は、「利子・配当・家賃等生活者」、「浮浪者」及び「その他の無職者」を足し合わせたもの。

【全国との比較】

- 全国の職業別の自殺者の状況を見ると、「無職者」が最も多く、次いで「被雇用者・勤め人」、「自営業・家族従業者」、「学生・生徒等」の順で、本県と同様である。また、「無職者」の内訳も、多い順から「年金・雇用保険等生活者」、「その他の無職者」、「主婦」、「失業者」で、本県と同様である。
- さらに、年齢階級別、職業別の自殺者の状況を見ると、職業別で最も自殺者が多い年代は全国も本県もほぼ同様であるが、「被雇用者・勤め人」については、本県は「50歳代」が最も多いのに対し、全国は「40歳代」が最も多く、また、「その他の無職者」については、本県は「30歳代」が最も多いのに対し、全国は「50歳代」が最も多くなっている。
- なお、全国の男女別の年齢階級別、職業別の自殺者の状況を見ると、男性では「70歳代の無職者」が最も多く、次いで「40歳代の被雇用者・勤め人」、「60歳代の無職者」となっており、本県は全国と比較して「50歳代の被雇用者・勤め人」の割合が多くなっている。また、女性では全国は「70歳代の無職者」、「80歳代の無職者」、「60歳代の無職者」の順となっており、本県は全国と比較して、特に「30歳代の無職者」及び「50歳代の無職者」の割合が多くなっている。
- さらに「学生・生徒等」を男女別に見ると、本県では男性は「20歳代」、女性は「19歳以下」が最も多いのに対し、全国では男女ともに「19歳以下」が最も多いことから、本県では「20歳代」の男子学生が比較的多いという特徴がある。

表2-2

【全国】年齢階級別、職業別自殺者数(令和元年)

職業別	年齢階級別		～	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80歳	不詳	合計
			19歳	29歳	39歳	49歳	59歳	69歳	79歳	～		
合計	計		659	2,117	2,526	3,426	3,435	2,902	2,917	2,134	53	20,169
	男		443	1,483	1,878	2,511	2,497	2,045	1,882	1,294	45	14,078
	女		216	634	648	915	938	857	1,035	840	8	6,091
自営業・ 家族従業者	計		0	38	153	281	330	311	230	67	0	1,410
	男		0	35	143	256	295	279	194	57	0	1,259
	女		0	3	10	25	35	32	36	10	0	151
被雇用者・ 勤め人	計		74	1,041	1,276	1,579	1,409	611	185	27	0	6,202
	男		55	764	1,065	1,291	1,188	517	153	24	0	5,057
	女		19	277	211	288	221	94	32	3	0	1,145
学生・生徒等	計		516	354	11	6	1	0	0	0	0	888
	男		346	262	7	3	1	0	0	0	0	619
	女		170	92	4	3	0	0	0	0	0	269
無職	無職者	計	68	647	1,049	1,488	1,628	1,942	2,485	2,038	0	11,345
		男	42	398	633	900	949	1,216	1,525	1,211	0	6,874
		女	26	249	416	588	679	726	960	827	0	4,471
	主婦	計	0	31	117	203	288	222	122	42	0	1,025
		男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	31	117	203	288	222	122	42	0	1,025
	失業者	計	4	80	121	192	214	62	11	0	0	684
		男	2	54	111	174	190	57	9	0	0	597
		女	2	26	10	18	24	5	2	0	0	87
	年金・雇用 保険 等生活者	計	1	31	85	161	182	1,020	1,920	1,681	0	5,081
		男	1	14	47	92	111	679	1,230	1,031	0	3,205
		女	0	17	38	69	71	341	690	650	0	1,876
その他	計	63	505	726	932	944	638	432	315	0	4,555	
	男	39	330	475	634	648	480	286	180	0	3,072	
	女	24	175	251	298	296	158	146	135	0	1,483	
不詳	計	1	37	37	72	67	38	17	2	53	324	
	男	0	24	30	61	64	33	10	2	45	269	
	女	1	13	7	11	3	5	7	0	8	55	

※ 無職者のうち、「その他」は、「利子・配当・家賃等生活者」、「浮浪者」及び「その他の無職者」を足し合わせたもの。

【10年前との比較】

- 「無職者」では、令和元年は「70歳代」が最も多いのに対し、10年前は「60歳代」が最も多くなっている。
- 「被雇用者・勤め人」では、令和元年は「50歳代」が最も多いのに対し、10年前は「40歳代」が最も多くなっている。
- 「自営業・家族従業者」では、令和元年は「50歳代」が最も多いのに対し、10年前は「60歳代」が最も多くなっている。
- 「学生・生徒等」では、全体における人数は少ないものの、令和元年は「19歳以下」が最も多いのに対し、10年前は「20歳代」が最も多くなっている。
- 「学生・生徒等」をさらに男女別に見ると、令和元年の男性は「20歳代」、女性は「19歳以下」が最も多いという状況は、10年前も同様の傾向にある。

表2-3

【神奈川県】年齢階級別、職業別自殺者数(平成21年)

年齢階級別 職業別		～	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80歳	不詳	合計	
		19歳	29歳	39歳	49歳	59歳	69歳	79歳	～			
合計	計	30	219	291	337	332	365	185	76	0	1,835	
	男	17	154	188	248	259	278	122	43	0	1,309	
	女	13	65	103	89	73	87	63	33	0	526	
自営業・ 家族従業者	計	0	6	14	31	41	53	15	3	0	163	
	男	0	5	14	28	37	51	13	1	0	149	
	女	0	1	0	3	4	2	2	2	0	14	
被雇用者・ 勤め人	計	2	78	123	127	115	58	7	1	0	511	
	男	0	61	92	111	104	53	6	1	0	428	
	女	2	17	31	16	11	5	1	0	0	83	
学生・生徒等	計	24	36	2	0	0	0	0	0	0	62	
	男	15	30	2	0	0	0	0	0	0	47	
	女	9	6	0	0	0	0	0	0	0	15	
無職	無職者	計	4	93	143	171	160	231	162	72	0	1,036
		男	2	54	73	102	102	153	102	41	0	629
		女	2	39	70	69	58	78	60	31	0	407
	主婦	計	0	6	30	34	38	54	25	3	0	190
		男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	6	30	34	38	54	25	3	0	190
	失業者	計	0	14	22	36	29	17	2	0	0	120
		男	0	10	16	31	29	17	2	0	0	105
		女	0	4	6	5	0	0	0	0	0	15
	年金・雇用 保険 等生活者	計	0	2	4	5	5	57	81	37	0	191
		男	0	1	3	1	3	47	60	25	0	140
		女	0	1	1	4	2	10	21	12	0	51
	その他	計	4	71	87	96	88	103	54	32	0	535
		男	2	43	54	70	70	89	40	16	0	384
		女	2	28	33	26	18	14	14	16	0	151
不詳	計	0	6	9	8	16	23	1	0	0	63	
	男	0	4	7	7	16	21	1	0	0	56	
	女	0	2	2	1	0	2	0	0	0	7	

※ 無職者のうち、「その他」は、「利子・配当・家賃等生活者」、「浮浪者」及び「その他の無職者」を足し合わせたもの。

【全体所見】

- 本県は、全国及び10年前の状況と比較すると、特に「20歳代」の男子学生が多いという特徴があり、20歳代の男子学生を対象とした取組の検討が考えられる。

3 原因・動機別の状況

(1) 年齢階級別

【令和元年の本県の状況】

- 令和元年の本県の原因・動機別の自殺者の状況を見ると、「健康問題」が最も多く、次いで「経済・生活問題」、「家庭問題」、「勤務問題」、「男女問題」、「学校問題」の順となっている。
- 「健康問題」では男女ともに「70歳代」が最も多く、「経済・生活問題」では男性は「50歳代」、女性は「30歳代・40歳代・50歳代」が最も多くなっている。また、「家庭問題」では男性は「40歳代」、女性は「30歳代・40歳代」が最も多くなっており、「勤務問題」では男性は「40歳代・50歳代」、女性は「20歳代」が最も多く、「男女問題」では男女ともに「20歳代」が最も多く、「学校問題」では男性は「20歳代」、女性は「19歳以下」が最も多くなっている。

表3-1

【神奈川県】年齢階級別、原因・動機別自殺者数(令和元年)

年齢階級別 原因・動機別		年齢階級別									合計
		～ 19歳	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	70～ 79歳	80歳 ～	不詳	
合計	計	35	116	143	172	186	107	131	65	0	955
	男	23	78	88	122	128	71	73	39	0	622
	女	12	38	55	50	58	36	58	26	0	333
家庭問題	計	6	11	25	28	23	18	23	16	0	150
	男	3	9	11	14	12	10	12	10	0	81
	女	3	2	14	14	11	8	11	6	0	69
健康問題	計	7	30	45	61	75	51	85	40	0	394
	男	4	19	24	39	40	29	44	23	0	222
	女	3	11	21	22	35	22	41	17	0	172
経済・生活問題	計	0	18	31	34	44	22	13	2	0	164
	男	0	14	26	29	39	18	10	2	0	138
	女	0	4	5	5	5	4	3	0	0	26
勤務問題	計	1	16	15	29	27	6	1	1	0	96
	男	1	9	14	25	25	6	1	1	0	82
	女	0	7	1	4	2	0	0	0	0	14
男女問題	計	4	18	11	9	4	1	0	0	0	47
	男	3	9	5	7	3	1	0	0	0	28
	女	1	9	6	2	1	0	0	0	0	19
学校問題	計	9	11	0	0	0	0	0	0	0	20
	男	6	11	0	0	0	0	0	0	0	17
	女	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3
その他	計	8	12	16	11	13	9	9	6	0	84
	男	6	7	8	8	9	7	6	3	0	54
	女	2	5	8	3	4	2	3	3	0	30

※ 遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上可能としているため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と、自殺者数実数とは一致しない。

【全国との比較】

- 全国の状況も本県と同様、多い順から「健康問題」、「経済・生活問題」、「家庭問題」、「勤務問題」、「男女問題」、「学校問題」となっており、それぞれの原因・動機別で自殺者が最も多い年代は、本県とほとんど同様である。
- 一方、全国と本県の状況が異なるものは、最も多い年代が「経済・生活問題」の女性について、全国が「50歳代」に対し、本県は「30歳代・40歳代・50歳代」、「家庭問題」の女性について、全国が「50歳代」に対し、本県は「30歳代・40歳代」、「勤務問題」の男性について、全国が「40歳代」に対し、本県は「40歳代・50歳代」、「学校問題」の男性について、全国が「19歳以下」に対し、本県は「20歳代」である。

表 3-2

【全国】年齢階級別、原因・動機別自殺者数(令和元年)

原因・動機別		年齢階級別									
		～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	不詳	合計
合計	計	618	2,130	2,612	3,669	3,678	2,840	2,880	1,949	5	20,381
	男	385	1,438	1,894	2,649	2,632	1,990	1,789	1,118	5	13,900
	女	233	692	718	1,020	1,046	850	1,091	831	0	6,481
家庭問題	計	116	224	435	590	528	393	434	319	0	3,039
	男	70	137	267	389	325	254	242	186	0	1,870
	女	46	87	168	201	203	139	192	133	0	1,169
健康問題	計	138	679	979	1,490	1,587	1,596	1,960	1,430	2	9,861
	男	66	362	605	887	942	987	1,181	821	2	5,853
	女	72	317	374	603	645	609	779	609	0	4,008
経済・生活問題	計	11	341	474	750	880	577	302	57	3	3,395
	男	6	303	440	660	778	509	238	43	3	2,980
	女	5	38	34	90	102	68	64	14	0	415
勤務問題	計	26	367	385	513	464	148	40	6	0	1,949
	男	19	283	343	464	426	136	37	3	0	1,711
	女	7	84	42	49	38	12	3	3	0	238
男女問題	計	63	237	187	153	64	14	7	1	0	726
	男	32	130	121	108	49	9	5	0	0	454
	女	31	107	66	45	15	5	2	1	0	272
学校問題	計	202	144	8	1	0	0	0	0	0	355
	男	146	117	5	1	0	0	0	0	0	269
	女	56	27	3	0	0	0	0	0	0	86
その他	計	62	138	144	172	155	112	137	136	0	1,056
	男	46	106	113	140	112	95	86	65	0	763
	女	16	32	31	32	43	17	51	71	0	293

※ 遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上可能としているため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と、自殺者数実数とは一致しない。

【10年前との比較】

- 10年前の原因・動機別も、令和元年と同様、多い順から「健康問題」、「経済・生活問題」、「家庭問題」、「勤務問題」、「男女問題」、「学校問題」の順となっている。
- 「健康問題」では、令和元年は男女ともに「70歳代」が最も多いのに対し、10年前は男性が「60歳代」、女性が「40歳代」が最も多くなっている。
- 「経済・生活問題」では、男性は10年前も令和元年と同様、「50歳代」が最も多くなっている。女性は「40歳代」が最も多かったのに対し、令和元年は「30歳代・40歳代・50歳代」が最も多くなっている。
- 「家庭問題」では、男性は10年前も令和元年と同様、「40歳代」が最も多く、女性は10年前は「30歳代」が最も多いが、令和元年は「30歳代・40歳代」がともに多くなっている。
- 「勤務問題」では、令和元年は男性が「40歳代・50歳代」、女性が「20歳代」が最も多いのに対し、10年前は男性が「40歳代」、女性が「20歳代・30歳代」となっている。
- 「男女問題」では、男性は10年前も令和元年と同様、「20歳代」が最も多くなっており、女性は10年前は「30歳代」が最も多かったが、令和元年は「20歳代」が最も多くなっている。
- 「学校問題」では、「20歳代」で男性がほとんどを占めるという状況は、10年前も令和元年と同様である。

表3-3

【神奈川県】年齢階級別、原因・動機別自殺者数(平成21年)

原因・動機別		年齢階級別									合計
		～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	不詳	
合計	計	19	170	251	320	275	255	141	59	0	1,490
	男	6	114	153	236	222	193	87	31	0	1,042
	女	13	56	98	84	53	62	54	28	0	448
家庭問題	計	3	17	38	48	31	31	18	11	0	197
	男	0	6	22	36	21	21	11	5	0	122
	女	3	11	16	12	10	10	7	6	0	75
健康問題	計	6	62	105	123	88	123	85	42	0	634
	男	1	36	59	74	56	81	51	21	0	379
	女	5	26	46	49	32	42	34	21	0	255
経済・生活問題	計	0	17	47	95	110	82	25	1	0	377
	男	0	12	37	83	104	74	18	0	0	328
	女	0	5	10	12	6	8	7	1	0	49
勤務問題	計	2	30	25	39	30	10	0	0	0	136
	男	1	24	19	35	29	10	0	0	0	118
	女	1	6	6	4	1	0	0	0	0	18
男女問題	計	3	24	26	8	4	2	4	0	0	71
	男	2	19	10	3	3	2	2	0	0	41
	女	1	5	16	5	1	0	2	0	0	30
学校問題	計	3	12	0	0	0	0	0	0	0	15
	男	2	11	0	0	0	0	0	0	0	13
	女	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
その他	計	2	8	10	7	12	7	9	5	0	60
	男	0	6	6	5	9	5	5	5	0	41
	女	2	2	4	2	3	2	4	0	0	19

※ 遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上可能としているため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と、自殺者数実数とは一致しない。

【全体所見】

- 本県は、全国及び10年前の状況と比較すると、「勤務問題」では、特に女性は「20歳代」が多いという特徴があり、女性の「勤務問題」については「20歳代」を対象とした取組の検討が考えられる。
- 本県は、全国及び10年前の状況と比較すると、「学校問題」では、「20歳代」が多く、そのほとんどを男性が占めるという特徴があり、「学校問題」については、「20歳代」の男性を対象とした取組の検討も考えられる。

(2) 職業別

【令和元年の本県の状況】

- 職業別に最も多い原因・動機別の状況を見ると、「自営業・家族従業者」は「経済・生活問題」、「被雇用者・勤め人」は「勤務問題」、「学生・生徒等」は「学校問題」、「無職者」は「健康問題」となっている。
- さらに男女別で見ると、「自営業・家族従業者」では男性は「経済・生活問題」、女性は「健康問題」が最も多く、また、「被雇用者・勤め人」では男性は「勤務問題」、女性は「健康問題」が最も多くなっている。
- 加えて「学生・生徒等」では男女ともに「学校問題」が最も多く、「無職者」では男女ともに「健康問題」が最も多くなっている。

表3-4

【神奈川県】 職業別、原因動機別自殺者数(令和元年)

原因・動機別	職業別	自営業・ 家族従業者	被雇用者・ 勤め人	無職						不詳	合計
				学生・ 生徒等	無職者	主婦	失業者	年金・雇 用保険等 生活者	その他		
合計	計	77	309	49	511	57	43	236	175	9	955
	男	66	243	37	271	0	41	120	110	5	622
	女	11	66	12	240	57	2	116	65	4	333
家庭問題	計	6	41	6	97	17	3	45	32	0	150
	男	5	28	4	44	0	3	22	19	0	81
	女	1	13	2	53	17	0	23	13	0	69
健康問題	計	15	85	8	286	32	12	157	85	0	394
	男	10	64	6	142	0	12	78	52	0	222
	女	5	21	2	144	32	0	79	33	0	172
経済・生活問題	計	46	44	4	67	0	22	12	33	3	164
	男	43	39	4	51	0	20	6	25	1	138
	女	3	5	0	16	0	2	6	8	2	26
勤務問題	計	3	91	0	2	0	1	1	0	0	96
	男	3	77	0	2	0	1	1	0	0	82
	女	0	14	0	0	0	0	0	0	0	14
男女問題	計	3	25	4	13	2	4	2	5	2	47
	男	2	18	2	6	0	4	0	2	0	28
	女	1	7	2	7	2	0	2	3	2	19
学校問題	計	0	1	19	0	0	0	0	0	0	20
	男	0	1	16	0	0	0	0	0	0	17
	女	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3
その他	計	4	22	8	46	6	1	19	20	4	84
	男	3	16	5	26	0	1	13	12	4	54
	女	1	6	3	20	6	0	6	8	0	30

※ 遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上可能としているため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と自殺者実数とは一致しない。

※ 無職者のうち、「その他」は、「利子・配当・家賃等生活者」、「浮浪者」及び「その他の無職者」を足し合わせたもの。

【全国との比較】

○ 全国の状況は本県とほぼ同様であるが、「被雇用者・勤め人」の男性では、本県は「勤務問題」が最も多いのに対し、全国は「健康問題」が最も多くなっている。

表3-5

【全国】職業別、原因動機別自殺者数(令和元年)

原因・動機別	職業別	自営業・ 家族従業者	被雇用者・ 勤め人	無職						不詳	合計
				学生・ 生徒等	無職者						
						主婦	失業者	年金・雇 用保険等 生活者	その他		
合計	計	1,550	6,542	856	11,294	1,095	843	5,051	4,305	139	20,381
	男	1,370	5,293	579	6,547	0	721	3,095	2,731	111	13,900
	女	180	1,249	277	4,747	1,095	122	1,956	1,574	28	6,481
家庭問題	計	205	979	120	1,715	262	97	757	599	20	3,039
	男	164	733	75	881	0	84	450	347	17	1,870
	女	41	246	45	834	262	13	307	252	3	1,169
健康問題	計	467	2,035	205	7,114	744	266	3,638	2,466	40	9,861
	男	385	1,478	120	3,843	0	216	2,192	1,435	27	5,853
	女	82	557	85	3,271	744	50	1,446	1,031	13	4,008
経済・生活問題	計	628	1,173	48	1,501	36	371	367	727	45	3,395
	男	595	1,084	40	1,220	0	334	278	608	41	2,980
	女	33	89	8	281	36	37	89	119	4	415
勤務問題	計	145	1,596	12	190	11	51	21	107	6	1,949
	男	132	1,413	6	154	0	42	19	93	6	1,711
	女	13	183	6	36	11	9	2	14	0	238
男女問題	計	41	427	79	175	16	25	19	115	4	726
	男	35	303	44	71	0	17	7	47	1	454
	女	6	124	35	104	16	8	12	68	3	272
学校問題	計	0	8	323	24	0	0	0	24	0	355
	男	0	7	241	21	0	0	0	21	0	269
	女	0	1	82	3	0	0	0	3	0	86
その他	計	64	324	69	575	26	33	249	267	24	1,056
	男	59	275	53	357	0	28	149	180	19	763
	女	5	49	16	218	26	5	100	87	5	293

※ 遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上可能としているため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と自殺者実数とは一致しない。

※ 無職者のうち、「その他」は、「利子・配当・家賃等生活者」、「浮浪者」及び「その他の無職者」を足し合わせたもの。

【10年前との比較】

- 職業別の最も多い原因・動機別の自殺者の状況は、「自営業者・家族従業者」及び「無職者」は10年前も同様の傾向にあるが、「被雇用者・勤め人」では令和元年は「勤務問題」が最も多いのに対し、10年前は「健康問題」が多く、また、「学生・生徒等」では令和元年は「学校問題」が最も多いのに対し、10年前は「健康問題」が多くなっている。
- また、最も多い原因・動機別の男女別では、「自営業・家族従業者」の女性が令和元年は「健康問題」に対し、10年前は「経済・生活問題」が、「被雇用者・勤め人」の男性が令和元年は「勤務問題」に対し、10年前は「健康問題」が、「学生・生徒等」の女性が令和元年は「学校問題」に対し、10年前は「家庭問題」及び「健康問題」となっている。

表3-6

【神奈川県】職業別、原因動機別自殺者数(平成21年)

原因・動機別	職業別	自営業・ 家族従業者	被雇用者・ 勤め人	無職						不詳	合計
				学生・ 生徒等	無職者						
						主婦	失業者	年金・雇 用保険等 生活者	その他		
合計	計	176	436	43	814	144	126	151	393	21	1,490
	男	160	347	31	489	0	111	107	271	15	1,042
	女	16	89	12	325	144	15	44	122	6	448
家庭問題	計	15	65	4	111	29	9	20	53	2	197
	男	12	49	0	61	0	9	16	36	0	122
	女	3	16	4	50	29	0	4	17	2	75
健康問題	計	44	125	14	445	104	29	93	219	6	634
	男	39	92	10	233	0	26	63	144	5	379
	女	5	33	4	212	104	3	30	75	1	255
経済・生活問題	計	100	89	2	176	6	76	24	70	10	377
	男	93	79	2	147	0	68	17	62	7	328
	女	7	10	0	29	6	8	7	8	3	49
勤務問題	計	9	101	2	22	0	6	0	16	2	136
	男	9	88	2	17	0	5	0	12	2	118
	女	0	13	0	5	0	1	0	4	0	18
男女問題	計	5	36	5	25	0	2	3	20	0	71
	男	4	21	5	11	0	1	2	8	0	41
	女	1	15	0	14	0	1	1	12	0	30
学校問題	計	0	0	12	3	0	0	0	3	0	15
	男	0	0	10	3	0	0	0	3	0	13
	女	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
その他	計	3	20	4	32	5	4	11	12	1	60
	男	3	18	2	17	0	2	9	6	1	41
	女	0	2	2	15	5	2	2	6	0	19

※ 遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上可能としているため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と自殺者実数とは一致しない。

※ 無職者のうち、「その他」は、「利子・配当・家賃等生活者」、「浮浪者」及び「その他の無職者」を足し合わせたもの。

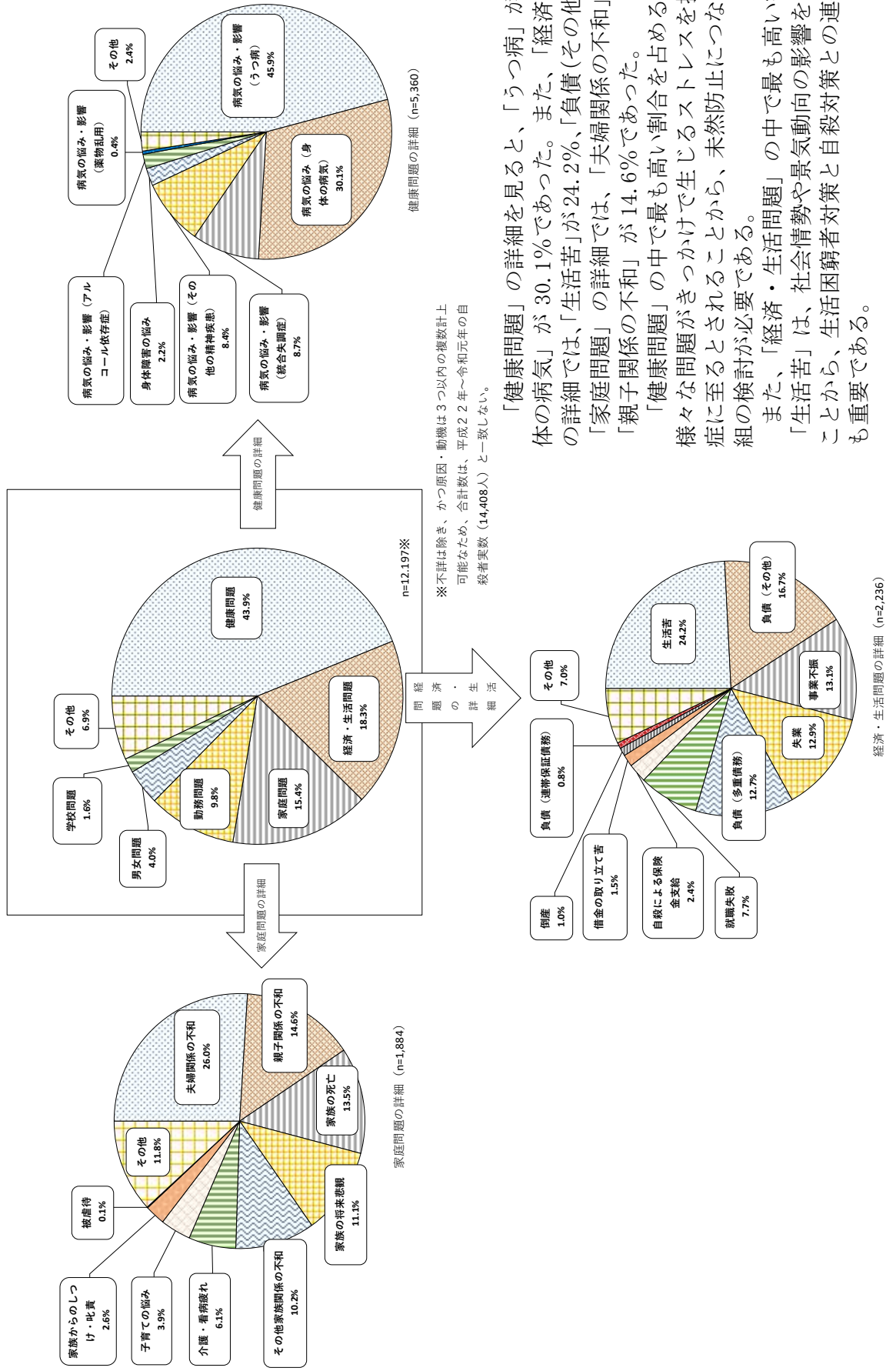
【全体所見】

- 本県は、全国及び10年前の状況と比較すると、「被雇用者・勤め人」では「勤務問題」、「学生・生徒等」では「学校問題」が多いという特徴がある。総じて置かれる立場や生活環境と自殺の要因とが密接に関係していることがうかがえることから、各職業や属性の特徴に応じた対策を検討し、きめ細やかな支援につなげていくことが考えられる。

(3) 原因・動機別内訳

自殺の多くは多様かつ複合的な原因や背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きています。原因・動機別の自殺者の状況については、最大3つまで計上されたものが公表されているが、過去10年間（平成22～令和元年）に神奈川県内で発見された自殺者14,408人のうち、原因・動機が特定できなかった延べ件数12,197件の内訳を分析したところ、「健康問題」が43.9%を占め、次いで「経済・生活問題」が18.3%、「家庭問題」が15.4%であった。

図3-1 【神奈川県】原因・動機別自殺者数（直近10年間（平成22年～令和元年）集計）



「健康問題」の詳細を見ると、「うつ病」が45.9%、「身体病」が30.1%であった。また、「経済・生活問題」の詳細では、「生活苦」が24.2%、「負債(その他)」が16.7%、「家庭問題」の詳細では、「夫婦関係の不和」が26.0%、「親子関係の不和」が14.6%であった。「健康問題」の中で最も高い割合を占める「うつ病は、様々な問題がきっかけで生じるストレスを抱えた末に発症に至るとされることから、未然防止につながる観点で取組の検討が必要である。また、「経済・生活問題」の中で最も高い割合を占める「生活苦」は、社会情勢や景気動向の影響を大きく受けることから、生活困窮者対策と自殺対策との連携による取組も重要である。

4 自殺未遂歴の状況

【令和元年の本県の状況】

- 自殺未遂歴の年齢階級別の状況を見ると、男女別の割合では、80歳以上を除けば、すべての年齢階級で自殺未遂歴「あり」は女性が多くなっている。また、女性の中では「20歳代」が最も多く48.6%と約半数となっており、次いで「40歳代」、「30歳代」の順で40%を超えている。
- 男性は「19歳以下」が最も多く25.8%となっており、次いで「20歳代」、「40歳代」の順で20%を超えている。
- 総数の状況を全国と比べてみると、本県は男女ともに自殺未遂歴「あり」の割合が多くなっている。

図4-1

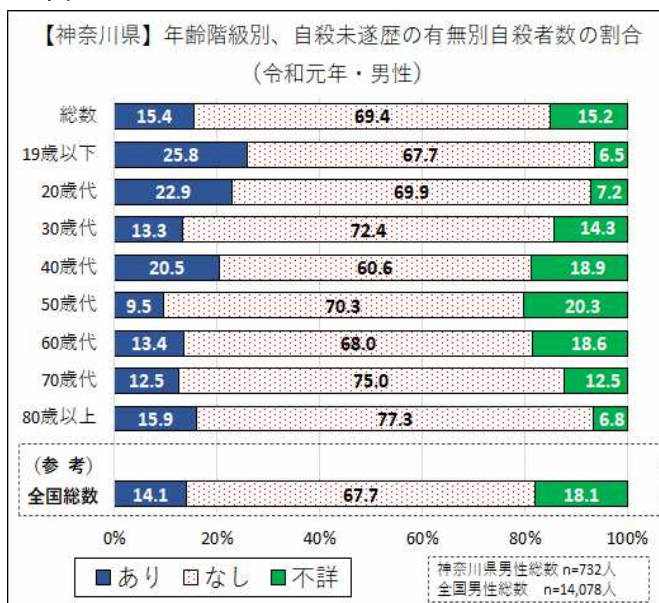
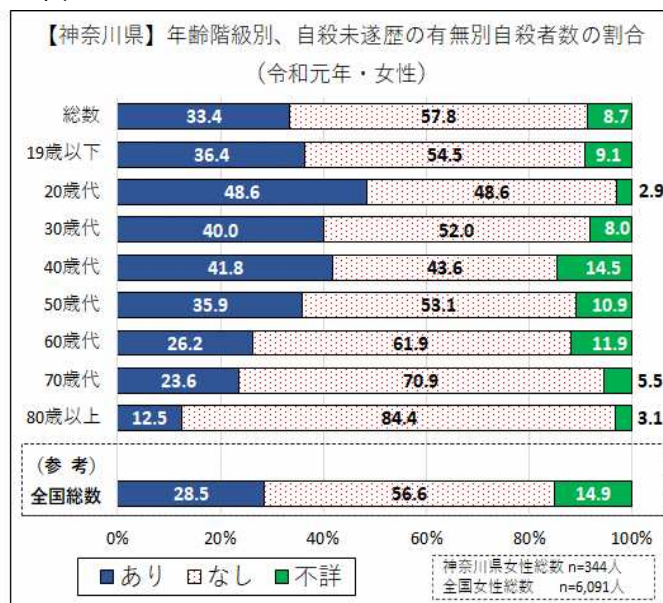


図4-2



【10年前との比較】

- 10年前と比べてみると、自殺未遂歴「あり」の割合は男性は「30歳代」、女性は「19歳以下・80歳以上」を除けば、男女ともに全体的に多くなっており、特に女性の「20歳代・70歳代」における割合の増が顕著である。

図4-3

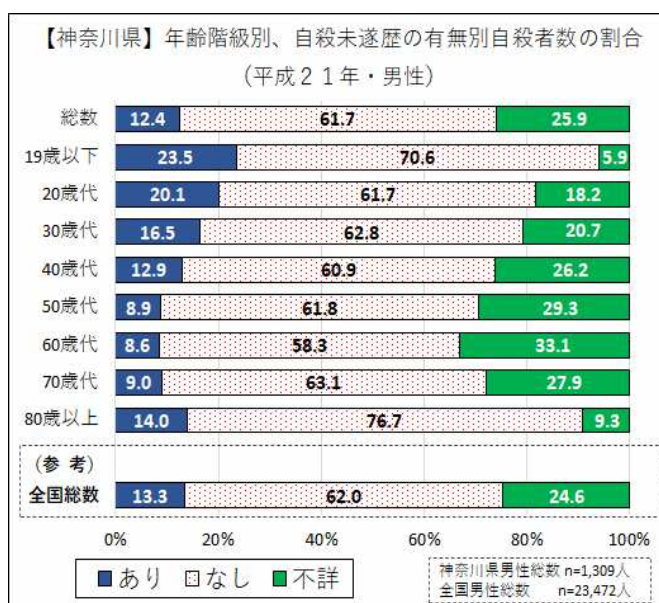
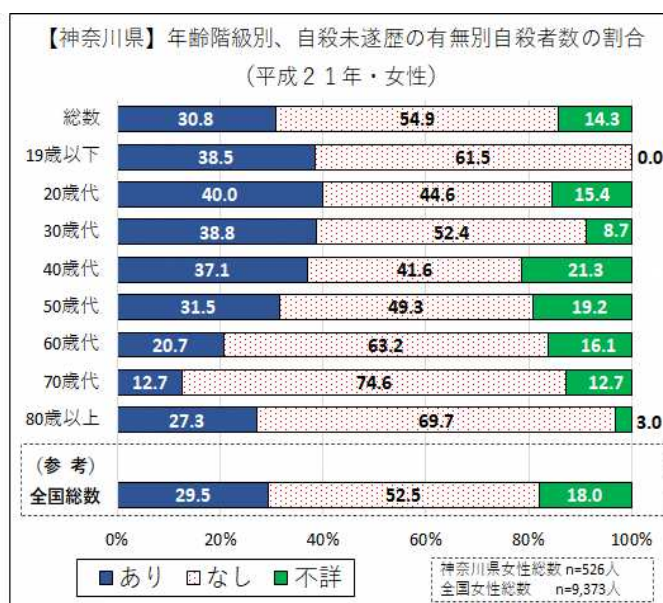


図4-4



【全体所見】

- 自殺未遂を図った人は再企図の危険も懸念されることから、未遂者支援対策を講じ、中でも20～40歳代の女性を対象とした取組を検討していくことが考えられる。

5 同居人の状況

【令和元年の本県の状況】

- 同居人の状況を年齢階級別で見ると、男性の「20歳代」、女性の「80歳以上」を除けば、男女ともに同居人「あり」が多い。
- 総数の状況を全国と比べてみると、本県は男女ともに同居人「なし」の割合が若干多くなっている。

図5-1

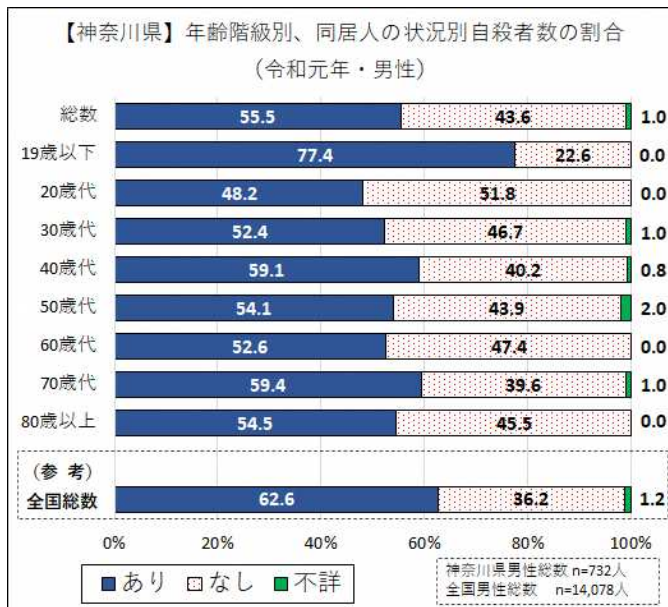
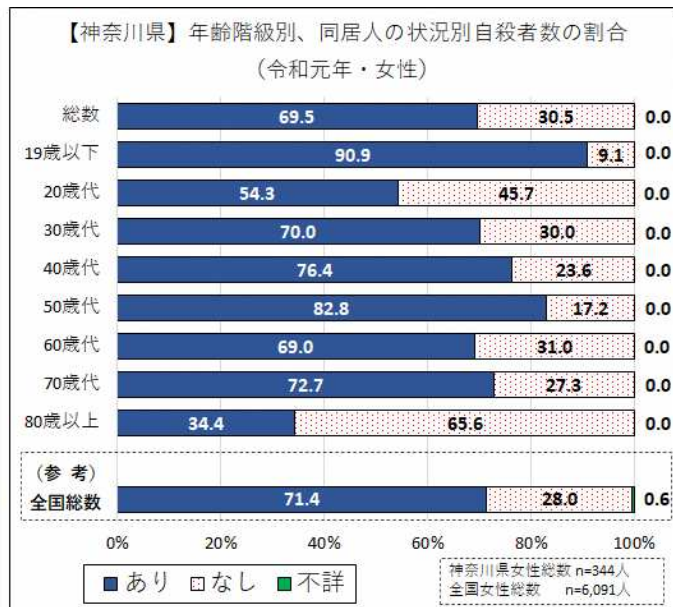


図5-2



【10年前との比較】

- 10年前と比べてみると、全国総数との対比状況は同じ傾向にあるが、年代別に見ると変化が生じている。
- 男性では、すべての年代で同居人「なし」の割合が多くなっており、中でも「19歳以下・20歳代」における割合の増が顕著である。
- 女性では、「50歳代・70歳代」を除くすべての年代で同居人「なし」の割合が多くなっており、中でも「20歳代・80歳以上」における割合の増が顕著である。

図5-3

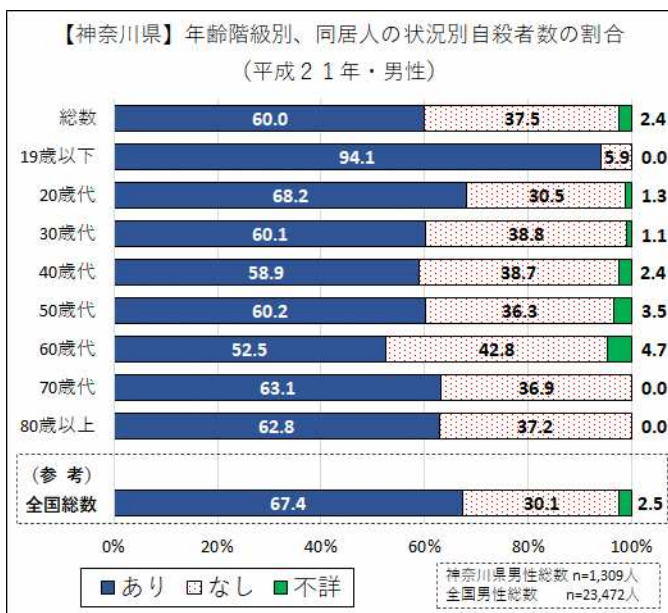
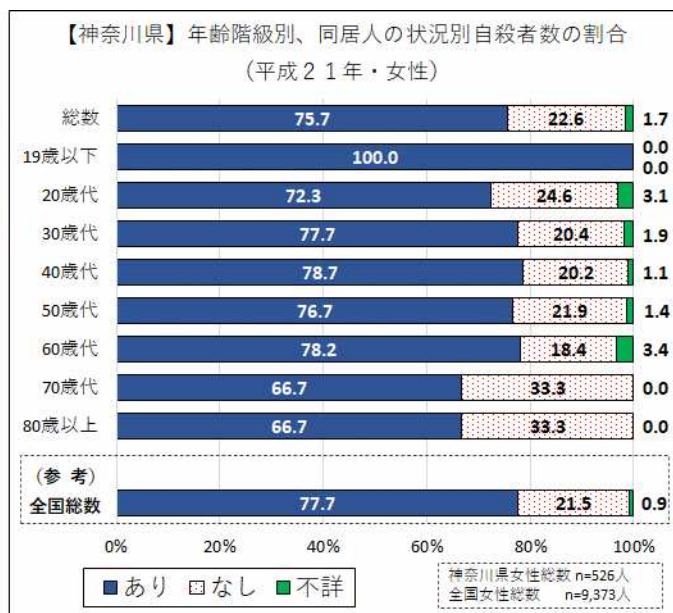


図5-4



【全体所見】

- 総じて男女ともに単身世代の自殺の割合の増加がうかがえることから、単身世代特有の悩みや困りごとへの対応を検討していくことが考えられる。

6 月別の状況

【令和元年の本県の状況】

- 月別の自殺者数の推移を見ると、全国では男性は「3月」、女性は「7月」が最も多いのに対し、本県では男性は「4月」、女性は「5月」が最も多くなっている。
- 一方、全国では男女ともに「12月」が最も少ないのに対し、本県では男性は「1月」、女性は「3月」が最も少なくなっている。

図6-1

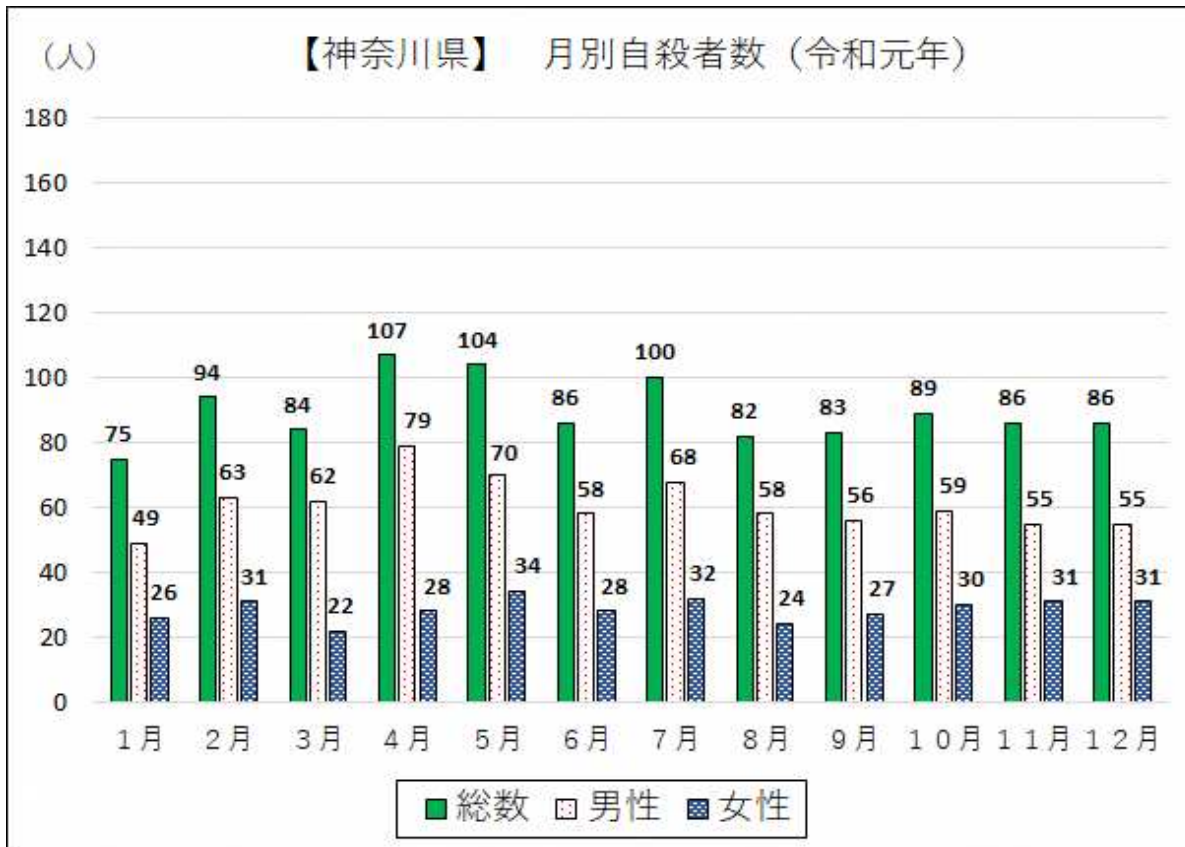


図6-2



- 月別の一日平均自殺者数の状況を見ると、全国では男性は「4月」、女性は「7月」が最も多いのに対し、本県では男性は「4月」、女性は「2月・5月」が最も多くなっている。
- 一方、全国では男女ともに「12月」が最も少ないのに対し、本県では男性は「1月」、女性は「3月」が最も少なくなっている。

図6-3

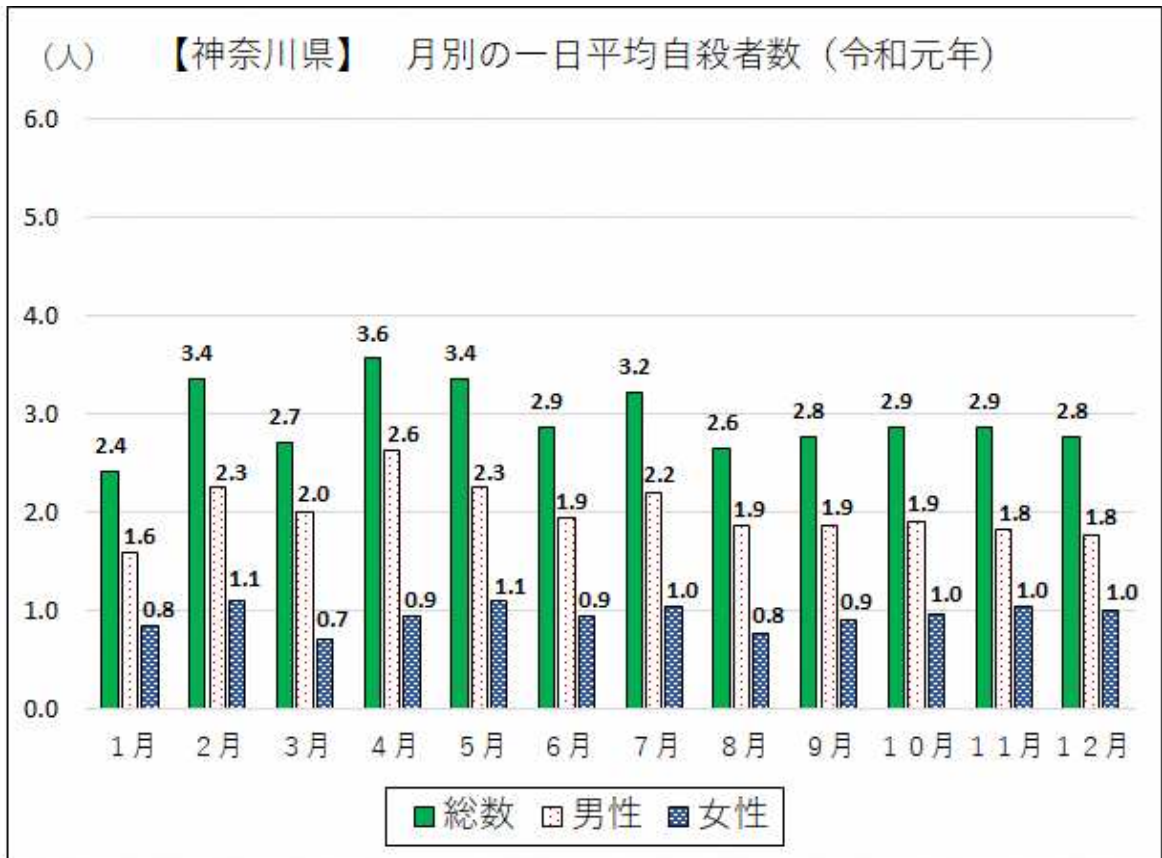


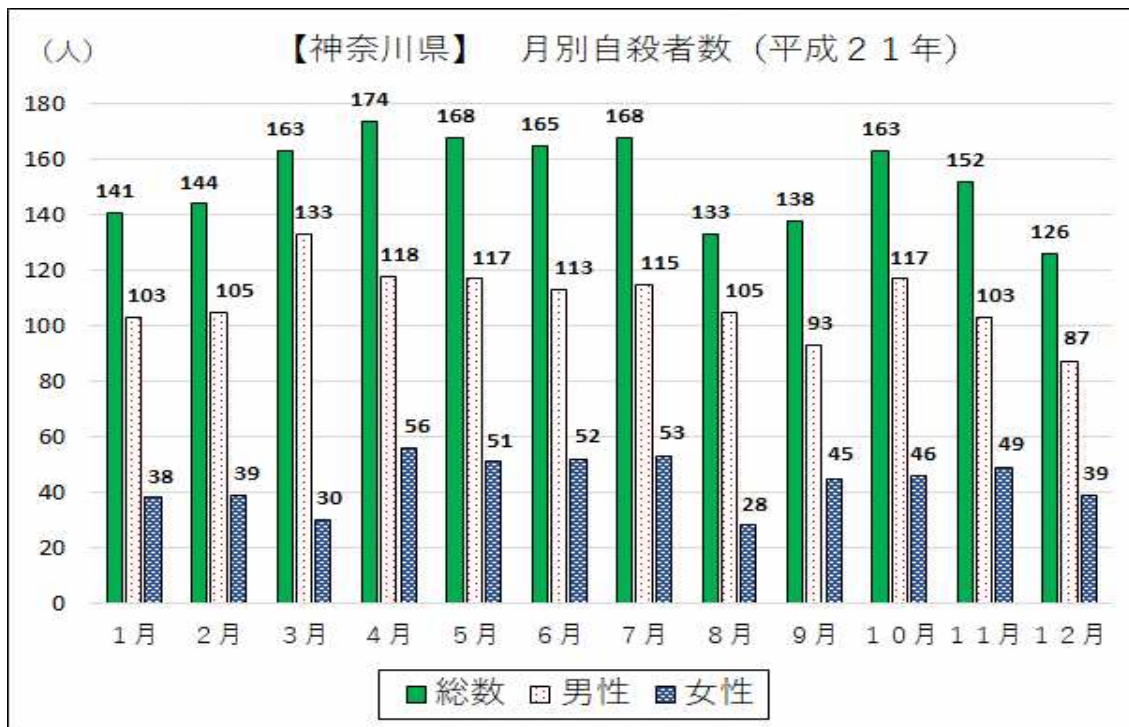
図6-4



【10年前との比較】

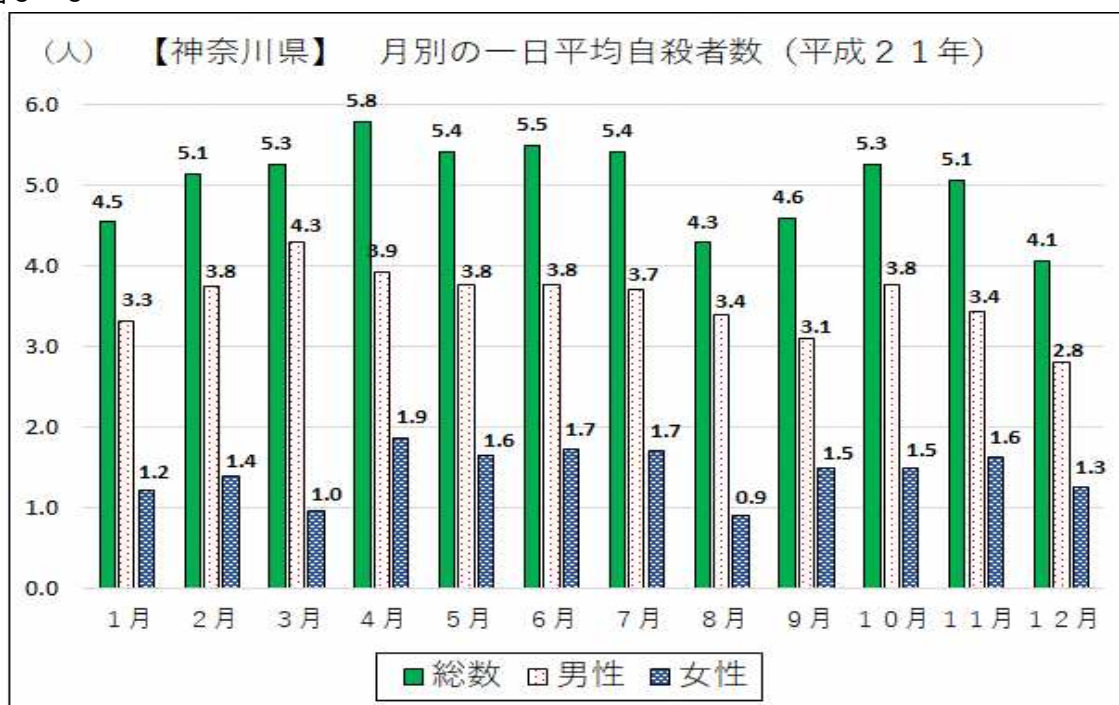
- 月別の自殺者数の推移を見ると、男性は令和元年は「4月」が最も多いのに対し、10年前は「3月」が最も多く、女性は令和元年は「5月」が最も多いのに対し、10年前は「4月」が最も多くなっている。
- 一方、最も少なかった月は、男性は令和元年が「1月」であるのに対し、10年前は「12月」、女性は令和元年が「3月」であるのに対し、10年前は「8月」となっている。

図6-5



- 月別の一日平均自殺者数の状況を見ると、最も多かった月は、男性は令和元年が「4月」であったのに対し、10年前は「3月」となっており、女性は令和元年が「2月・5月」であったのに対し、10年前は「4月」となっている。
- また、最も少なかった月は、男性は令和元年が「1月」であるのに対し、10年前は「12月」、女性は令和元年が「3月」であるのに対し、10年前は「8月」となっている。

図6-6



【全体所見】

- 月別の自殺者数の男女別の推移は変動しているが、総数の状況を全体的にとらえると、本県・全国ともに「3～4月」が比較的多く、「12～1月」が少なくなる傾向がうかがえることから、普及啓発や相談支援事業などを特定の期間に行う際には、効果的な時期を見極めたいえで実施することが重要である。

7 曜日別の状況

【令和元年の本県の状況】

- 曜日別の一日平均自殺者数の状況を見ると、男性は本県・全国ともに「月曜日」が最も多く、女性は全国では男性と同じく「月曜日」が最も多いのに対し、本県では「日・火・金曜日」が最も多くなっている。
- また、最も少ない曜日は、全国では男女ともに「土曜日」であるのに対し、本県では男性が「木・土曜日」、女性が「木曜日」となっている。

図7-1

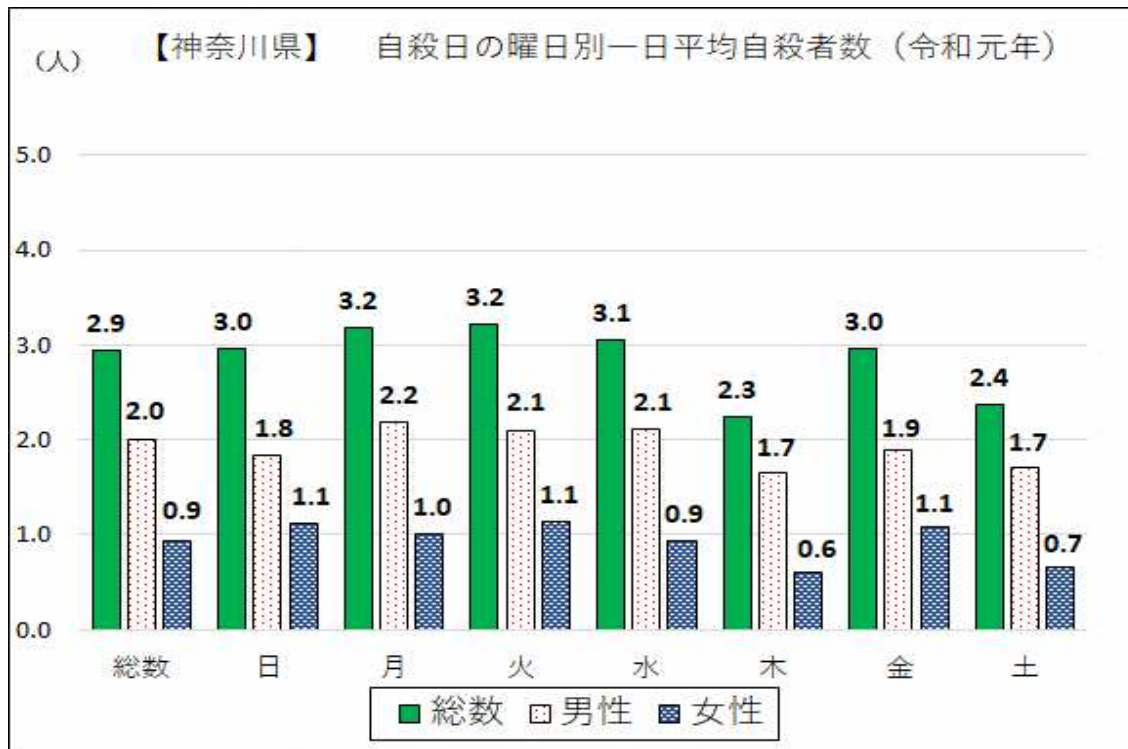
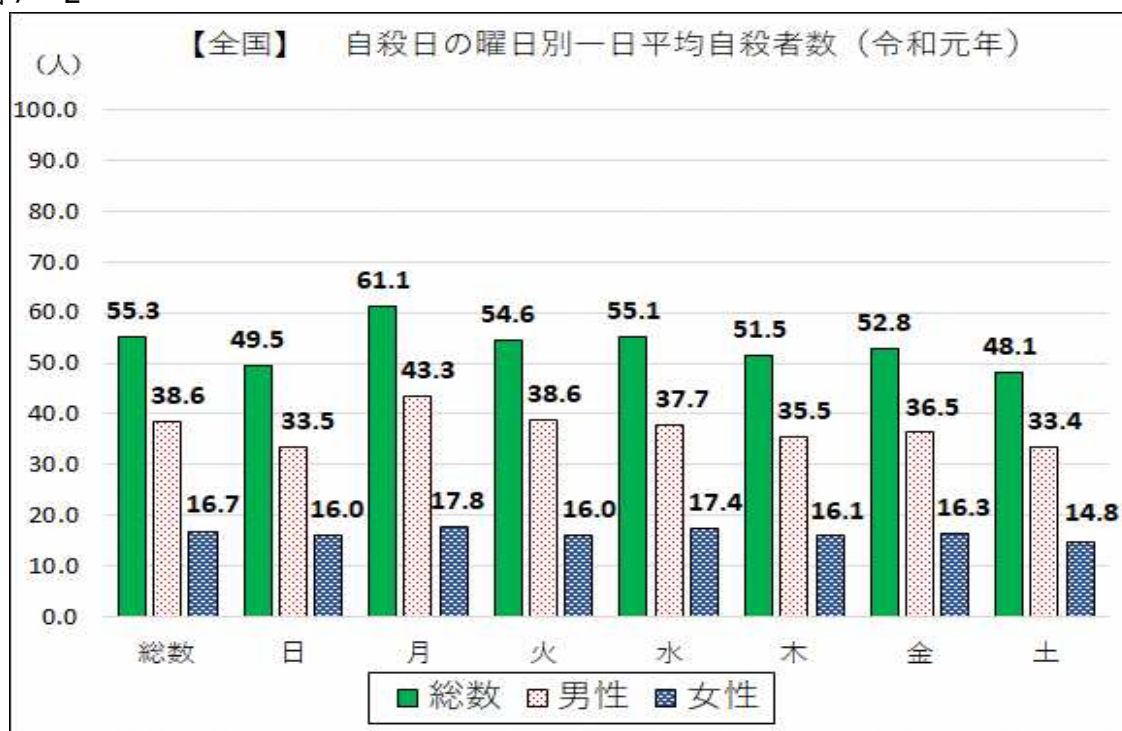


図7-2

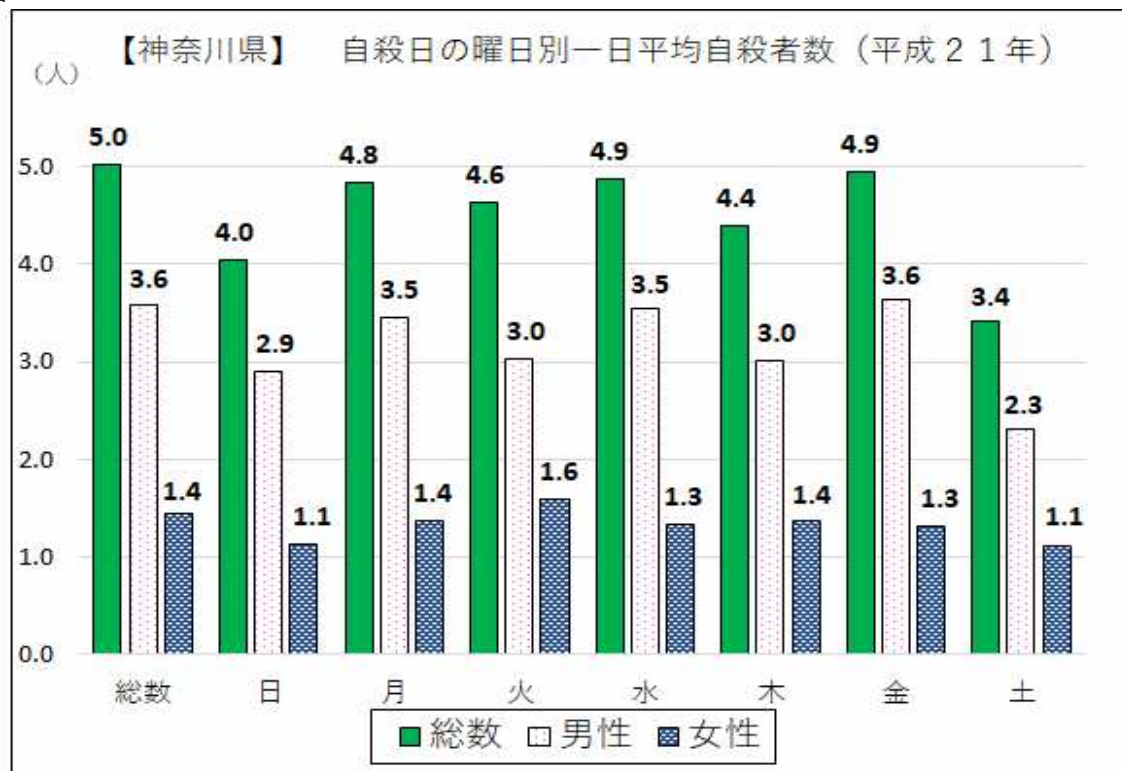


※ 「曜日別」については、比較する全国データが「自殺日」に基づいて集計しているため、神奈川県についても「発見日」ではなく、「自殺日」に基づいて集計した。

【10年前との比較】

- 曜日別の一日平均自殺者数の状況を見ると、最も自殺者が多かった曜日は、男性は令和元年が「月曜日」であるのに対し、10年前は「金曜日」、女性は令和元年が「日・火・金曜日」であるのに対し、10年前は「火曜日」となっている。
- また、最も少なかった曜日は、男性は令和元年が「木・土曜日」であるのに対し、10年前は「土曜日」、女性は令和元年が「木曜日」であるのに対し、10年前は「日・土曜日」となっている。

図7-3



※ 「曜日別」については、比較する全国データが「自殺日」に基づいて集計しているため、神奈川県についても「発見日」ではなく、「自殺日」に基づいて集計した。

【全体所見】

- 曜日別の一日平均自殺者数の男女別の状況は、総じて男性は本県・全国ともに「月曜日」が多く、「土曜日」が少ない傾向にある。女性は全国では男性と同じく「月曜日」が多く、「土曜日」が少ない傾向にあるのに対し、本県では一貫した傾向が見られない。